

お心入れ

先月亡くなられた高倉健さんの座右の銘は、「往く道は精進にして、忍びて終り悔いなし」
天台宗比叡山延暦寺の酒井雄哉氏から贈られたものだそうです。

その高倉健さんが大切にしていたことがあるそうです。

「お心入れ」という想い。

主にお茶の世界で、お客様へのおもてなしについての言葉だそうです。迎える方もさりげなく、もてなされた側も気付いていても言葉には出さず、心でそっと受けとめる。

高倉健さんのエッセイより

お心入れって、いい言葉ですよ。

お心入れがないんですよ。

このごろ・・・端的に、どこそこの何でございまして、ちょっと高級といわれる料亭行くと、「ええ、これは琵琶湖のシジミでございまして。」って。

「聞いてねえよ！」って言いたいときがありますね。

どこそこの和牛でございましてか、これは何とかのヒレでございましてか、みんな説明しちゃうんですよ。

この自分が今、売る商品に関しての・・・それはある意味では自信なんだろうけど。

僕はだからお心入れっていうのは、お互いにわかっているって、何も言わないで出すんだけど、これだけはあなたのために自分は選んできたんだって言いたいけれども言わない。

で、出されたほうは、これだけ気をつかっていただいて出してもらった、みんなわかっている・・・それはもうある意味では、文化だっていう気がするんですよ。

今は何でもデータを全部書いてしまうでしょう、カタログだって。

だから、やれトルクがどうのって、全部出してしまおうでしょ。

出してないのはロールスロイスくらいですかね。

あれ出さないですよ。

だから、あそこになんか日本人に近い何かがあるのかなあと思ったり・・・ともかくどこも出しますよ。

僕、出さないものがあるってもいいんじゃないかなあって思うんですよ。

本当にそういう時代が来てるんじゃないですかね・・・ぐるぐる回っているんでしょうけど。

うーん、今の日本人にはもうわかんない感覚ですよこれ。

もちろんわたくしもですが。

かといって欧米のようにはっきりモノが言いまくれるかというとなんか全然そうじゃない。

かなり中途半端な民族になってしまっている、そんな気がします。

要するに思いが入っていないのに思いが入っているように売るから具合が悪いので、本当に思いが入っているのに、入っていない素振りするところが格好いいのかもわかんないですね。

健さん伝説の根本がここにありますが。

ものすごいお心入れをしているのに、みんなが気付いたときにはもうそこにいなかったりする。それは、お金の使い方であったり、時間の使い方であったりするわけですが、どこまでも心を配るその姿勢に、まわりのみんなはポーッと立ちあがりそうなんです。

それでも心は健さんに真っ直ぐですよ。

人間、何が一番幸せって、人様に想ってもらえることだと思うんです。

究極に言えば、自分の葬式で何人の人が泣いてくれるか。

それってその人がどう生きたかのひとつの尺度だと思うのですが、結局こういうことの積み重ねでしかないんですよ。積陰徳。